

長岡市・関係団体共同記者発表要旨

日 時：令和元年9月27日（金）午後4時から

会 場：アオーレ長岡西棟4階 第二委員会室

【発表項目：北陸方面からの新たな玄関口に！事業化に向けた一歩！

大積スマートIC（仮称）が準備段階調査箇所を選定】

出席者：長岡市長 磯田 達伸

大積スマートIC（仮称）・長岡ニュータウン連絡道路整備促進期成同盟会長 丸山 勝総

（司会）

これより大積スマートIC（仮称）準備段階調査箇所採択について、長岡市と大積スマートIC（仮称）・長岡ニュータウン連絡道路整備促進期成同盟会の共同記者発表を行います。

（長岡市長）

本日、大積スマートインターチェンジ（仮称）の必要性が確認できたということで、国による準備段階調査箇所を選定されました。長岡市は、北陸自動車道のジャンクションから西山インターチェンジの間の大積スマートインターチェンジの整備を期成同盟会、地元町内会の皆さんと力を合わせながら要望してきたところでありまして、本当に朗報だと感じています。

今後は、国、県、東日本高速道路株式会社など関係機関による準備会を設置いたしまして、社会便益や利用交通量、インターチェンジ構造などの詳細の検討なども行いながら、早期の事業化を目指します。

また、関連の長岡市の事業として、長岡ニュータウンと今回のインターチェンジを結ぶ市道・長岡ニュータウン連絡道路につきましては、9月議会で市道認定をいただきながら事業に着手してまいります。このように長岡への新たな玄関口が生まれることによって企業活動の効率化や企業立地の促進、そして交流人口の拡大といったものも実現できるということを期待しているところです。

名称は大積スマートインターチェンジ（仮称）となっておりますが、正式名称については今後関係機関との地区協議会にて決定したいと思っております。路線名は、資料に記載のとおりであります。また、国土交通省発表資料も添付させていただきました。

次に、長岡ニュータウン連絡道路の概要であります。事業主体は長岡市で、路線名は市道西幹線84号線です。位置は、国営越後丘陵公園の正面入り口から国道8号の宮本パーキング付近に接続し、延長、幅員は資料に記載のとおりです。今年度は、測量調査と設計に着手したいと考えております。

この大積スマートインターチェンジ（仮称）と連絡道路の整備が実現すると、まず大積スマートイ

インターチェンジからニュータウンを、そしてフェニックス大橋を通過して川東の国道17号、長岡東バイパスを結ぶ東西の連絡軸が強化されると考えておりました、信濃川を挟んで東西に広がる長岡市域を太いパイプで結ぶこととなります。そのことから生じる期待される効果ですが、まず高速道路の利便性が向上することによって長岡オフィスアルカディア、西部丘陵の東地区の産業ゾーン、雲出工業団地といった既存企業の活動が効率化され、あるいは刺激されて生産が向上するのではないかとということです。それに新たな企業立地の促進も期待しています。

二つ目は、観光交流人口の拡大ということで、年間48万人という入り込みの国営越後丘陵公園が、当初誘致したときは200万人、300万人の年間入り込みを目指していたので、これはぜひ100万人、200万人規模に拡大することをぜひ期待したいと思っております。そのほか県立歴史博物館、雪国植物園、あるいは現在建設中のながおか花火館（仮称）など、近隣のいろいろな観光施設がございますので、そこへのアクセス性が非常に高まり、交流人口、インバウンドの拡大を期待しているところです。

また、三つ目としまして、インターが一つ増えることによって交通の分散化が図られ、特に長岡まつり大花火大会の渋滞緩和、あるいは誘客促進が期待できるのではないかと考えております。

四つ目は、防災、減災機能の強化という観点からいいますと、まず国営越後丘陵公園が防災拠点に指定されておりますので、そこへのアクセス性は向上するというものでありまして、災害時の円滑な救援活動、避難活動に資する面が大きいと思っております。また、いざというときの原発の避難道路という面でも、この大積インターというものが利用されることも意義深いものだと思っております。

なお、長岡、中之島・見附、長岡南越路と長岡北、この四つのインターの利用台数の推移を見ますと、この5年間で6.6%増えております。約2,000台増えておりまして、新しいインターができることによって乗降が分散されるという面もあるわけですが、全体として利用促進が図られると考えておりまして、そういう意味ではさらなる観光とか産業面での長岡への貢献というものを大積インターにも期待したいと思っております。

最後になりますが、本日は丸山会長ほか、同盟会の役員の方に来ていただいております。この同盟会は昨年7月に発足いたしましたので、10月には300人以上が参加する総決起大会を開きました。以後、国をはじめとしていろいろな機関に要望してきたところではありますが、今回の発表を受けて皆さまが期待する、あるいは長岡市が期待する事業化に向けて大きく前進したというふうに私は考えておりますので、さらにまたこれから皆さんと一緒に力を合わせながら早期実現を目指して進んでいきたいと思っております。

（司会）

続きまして、期成同盟会を代表しまして丸山会長からごあいさつをいただきます。

（同盟会会長）

大積スマートインターの期成同盟会の丸山勝総と申します。今日は代表してごあいさつをさせていただきますが、本来、期成同盟会は川西の大積地区、宮本地区、青葉台地区、関原地区、深沢地区、才津地区、日越地区の7地区から成る連合町内会長さんが中心になって動いていただいたんですけれ

ども、今日は都合で出席できず、大積コミュニティセンターの関矢センター長さんに同席していただきました。

効果等々は、今ほど市長がおっしゃったとおりですが、私個人的には、議員になって2回目か3回目の一般質問で、このインターチェンジ、あるいはアクセス道路の早期実現の質問をしたことがありました。そのときは全く実現ができないのではないかという空気でしたが、今本当に夢のように思っております。これまでの間ご尽力いただきました佐藤信秋国会議員をはじめ、関係国会議員、県議員、そして磯田市長をはじめとした土木部の皆さまには心から感謝を申し上げたいと思っております。

また、昨年長岡市から大積ICに対する調査費として約1,500万円の予算をつけていただきました。こういったことも一つの要因ではないかなと思っております、本当にありがたいと思います。

今後は、同盟会としてもさらなる支援、活動を続けながら早期の開通へ向けまして、また市長が最後におっしゃった大積、宮本地区は柏崎刈羽原発から一部が10キロ以内でありますし、避難する場合に高速道路で新潟や東京方面、あるいはフェニックス大橋で魚沼や栃尾方面に避難するには最適な道路になり得ると思っております。その辺も含めながら、これまでの今日に至るまでの関係各位に心から感謝を申し上げまして、ごあいさつとさせていただきます。本当にありがとうございました。

(司会)

これより質疑応答に入ります。

(記者)

準備会の発足は大体いつごろになるかお聞かせください。

(土木政策調整課長)

これから国土交通省、NEXCO東日本、関係機関と協議しながら決まることになっていきますが、私どもはできるだけ早く第1回目の準備会を開催したいと思っております。準備会については、国土交通省が設置することになりますが、年内には第1回目の準備会を開催していただきたいと思っております。

(記者)

長岡ニュータウン連絡道路の調査費用は12月の補正予算での対応でしょうか。

(土木政策調整課長)

当初予算で調査費全体で5,500万を計上しております。

(記者)

この国の準備調査箇所の対象になったことで、事業化は実現するのでしょうか。それとも、事業化に至らないこともあるのでしょうか。

(市長)

調査の中で、このインターができることによる便益の向上とか、交通量の問題とか、利用の頻度とか、そういうものを分析して、事業効果があるという確信を国土交通省が持って事業化するというようになっておりますので、今の段階では、国土交通省さんとしては、調査してからということになります。ただ、私どもとしてはそこは十分に自信を持っておりますので、そういう意味では私は大きく

一歩前に進んだなというふうに思っております。

(記者)

ニュータウン連絡道路は、準備会にかかわらず進めていくということによろしいでしょうか。

(市長)

そうです。それと、国道8号への接続という大きな狙いがありますので、長岡市にとっては本当に必要な事業として先行的に進めていきたいと思っております。

(記者)

長岡北スマートインターができたときは、流通産業団地に直結するという目的がわかりやすかったのですが、今回は東西交通の強化ということによろしいですか。

(市長)

もともとここは、いわば長岡の交通の骨格として既に平成3年に都市計画決定して、この道路は必要だという方針を決めたものでありますので、そういう意味では長岡全体の交通の骨格の重要な部分であるという認識はありました。そういう考え方の中で、この大積インターを整備すればさらなる相乗効果が生まれるということで運動してきたということでもあります。

(記者)

大積スマートインターの建設費や負担割合はどのようになりますか。

(土木政策調整課長)

事業は長岡市とNEXCO東日本の共同事業になります。料金ゲートから高速道路側はNEXCO東日本が整備する部分、料金ゲートまでは長岡市が整備する部分となっております。

(記者)

北スマートインターの負担割合をお聞かせください。

(土木政策調整課長)

全体で37億円かかっておりまして、そのうち12億円は市が負担しています。

(記者)

北スマートインターと比べて、事業費の見込みをお聞かせください。

(市長)

大体3分の1くらいです。

(記者)

準備会の構成機関をお聞かせください。

(土木政策調整課長)

国土交通省の北陸地方整備局、そして東日本高速道路株式会社新潟支社と新潟県、長岡市が構成メンバーになる予定です。

(記者)

地区協議会の構成は。

(土木政策調整課長)

協議会もほぼ同じメンバーになると思います。

(記者)

事業化とは、工事が始まるという理解でよろしいでしょうか。

(市長)

国は、直接工事するわけではないので、工事をするのは長岡市とNEXCOです。そこに対する負担というものを国が決定して補助金を予算化します。それを受けて、NEXCOと長岡市が測量調査から始めて工事を始めていく、それが事業着手ということです。

(記者)

供用開始時期の見込みは。

(市長)

私どもは、できるだけ早くということで要望していきたいと思いますが、今回の調査の内容を国がどういうふう to 評価するかにもかかわってきますので、私どもの希望としては1年後には事業化が実現して動き出してほしいと思っています。

いずれにしても私どもの思いでありますので、この調査の内容がどういうふうに出てくるかというのが当面の大きな課題なので、そこには全力を尽くしていきたいと思っています。

(記者)

丸山さんにお伺いします。実現に向けこれまで活動されてこられたと思いますが、今の率直な気持ちと、あとはまた地域の方、先ほど8号までの連絡道路を願っているとおっしゃっていましたが、一番の期待や願いはどんな点でしょうか。

(同盟会会長)

交流人口とか産業の活性化等々もありますけれども、地元からは渋滞緩和も含めて防災面の効果、フェニックス大橋の先にある立川総合病院へのアクセス、そういったことが総合的に非常に効果が上がるということで、地元ではかなり前から要望がありました。地元の要望が長岡市全体の要望としていただいた結果が今日に至ったのかなと思っています。連合町内会長の方々がこの場にはいないのは非常に残念ですけれども、心から喜んでおりました。